【基盤研究（S）】

大区分Ａ

研究課題名　シルクロードの国際交易都市スイヤブの成立と変遷 －農耕都市空間と遊牧民世界の共存－

帝京大学・文化財研究所・教授

山内（やまうち）　和也（かずや）

研究課題番号：　21H04984　　研究者番号：70370997

研究期間：　令和３年度－令和７年度　研究経費（期間全体の直接経費）：146,700 千円

キーワード：　アク・ベシム、スイヤブ、農耕都市、遊牧民、シルクロード

【研究の背景・目的】

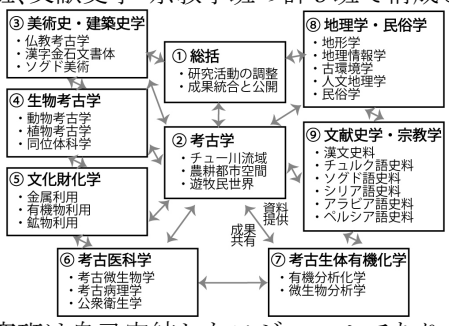
キルギス共和国北部に位置するアク・ベシム遺跡、つまりかつてのスイヤブは、5 世紀にシルクロードの交易の民、イラン系ソグド人が植民・建設した都市であり、7 世紀後半には唐の軍事拠点（砕葉鎮城）が隣接する地区に建設された。

本研究では、2011 年以降の発掘調査成果を基に、より体系的かつ組織的にスイヤブを発掘し、都市の成立から衰退（10 世紀頃）までの歴史や人々の生活の詳細な復元をめざす。また、この地域は交易を担った農耕都市定住民と遊牧民、異なる宗教が接触・共存した場所であることから、農耕都市空間と遊牧民世界の接触と交流、遊牧民と唐王朝、あるいは諸宗教の対立や共存関係を具体的に解明することを目指す。

本研究は、いままでの実績と経験を踏まえ、これらの課題を総合的に解明するために、長期的計画のもとに考古学、美術史学、建築史学、生物考古学、文化財科学、考古医科学、考古生体有機化学、地理学、民俗学、文献史学、宗教学の諸分野の最前線の研究者が集い、学際的かつ多角的にアク・ベシム遺跡と周辺の草原地域の歴史や人の営みの全貌を明らかにする。

【研究の方法】

本研究の組織は、総括班と 8 つの研究班、つまり考古学班、美術史・建築史班、生物考古学班、文化財科学班、考古医科学班、考古生体有機化学班、地理学・民俗学班、文献史学・宗教学班の計 9 班で構成される。



各研究班は自己完結したモジュールであり、各班が独立して研究を行うが、それと同時に各班が連携し、遺跡を含む文化空間における住民の衣食住や文化・歴史を総合的に復元する。各研究班は、以下の点に関し、協力・連携して研究を推進する。

① 農耕都市空間としての都市遺跡スイヤブ全体を組織的に発掘し、ソグド人の居住区と唐の軍事施設（砕葉鎮城）から出土する資料を基にして、ソグド人と中国人の生活形態の共通点と相違点、そして接触交流を明らかにする。

②考古学班は発掘や調査研究に加えて、これまで参画していなかったさまざまな分野の先端技術を導入し、出土資料を多角的に分析し、スイヤブの歴史や文化、人々の生活の復元に対する新たなアプローチを試みる。

③ 遊牧民世界に焦点を合わせた調査研究を実施し、農耕都市空間との共存関係を解明する。

④ シルクロードを通じて伝播し、この地域に存在していた諸宗教の接触と共生の様相を明らかにする。

⑤ 点としての都市スイヤブ（農耕都市空間）と面としてのチュー川流域地域（遊牧民世界）を 1 つの空間として総合的に解明し、シルクロード沿いに位置する類似空間における農耕都市空間と遊牧民世界の共存関係を学術的に理解するためのモデルを構築する。

【期待される成果と意義】

シルクロードの交易都市における東西世界、異なる民族や文化、宗教の交流と共存関係の実態を具体的な資料を用いて解明する。

農耕都市空間である「点」としてのスイヤブ、遊牧民世界である「面」としてのチュー川流域を、1 つの空間として総合的に解明することで、シルクロード沿いに広く存在する 2 つの生活圏の共生関係を理解する「スイヤブ・モデル」を構築する。さらには、「スイヤブ・モデル」は類似する自然環境における人間生活の理解と復元のための汎用性の高いモデルとなることから、このモデルを国際的に発信し、学術に貢献する。

医学系の研究者と連携し、先端的な技術や方法論を応用することで、本研究に即した新たなアプローチと方法論の開発、さらには「考古医科学」や「考古生体有機化学」といった新たな研究分野を創出する。

本研究で得られる知見は、スイヤブの文化遺産としての価値を高め、世界遺産であるこの遺跡の観光資源としての活用にもつながり、SDGs に大きく貢献することとなる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

・山内和也、バキット・アマンバエヴァ責任編集『アク・ベシム（スイヤブ）2019』帝京大学文化財研究所・キルギス共和国国立科学アカデミー、2020。
・山内和也 「アク・ベシム遺跡第 1 シャフリスタンの都市プランの変化」『帝京大学文化財研究所 研究報告』第 18 集、2019、pp.1-17。

【ホームページ等】

https://www.teikyo-u.ac.jp/affiliate/research/sr
https://www. teikyo-u.ac.jp/teikyolab/lab003
E-mail：teikyo.bunkazai@teikyo-u.ac.jp